

編集後記

坂井建雄先生の理事長就任にともない、その後任として私が編集委員長を拝命したのは平成29(2017)年6月の第118回総会のことです。今般計らずも坂井理事長の後任として理事長職を務めることになり、懇請して永島剛先生に編集委員長を交替することとなりました。振り返れば、63巻3号から69巻2号まで6年間24号分の本誌をどうやら発行できたことは、編集委員各位、中西印刷、学会事務局のご協力と論文投稿や査読・寄稿など会員各位のご理解のたまものと深く感謝いたします。この数年間は本誌の転換期であったと感じています。2020年のパンデミックを挟んで編集委員会は様変わりし、オンライン会議が完全に定着しました。2019年からは前身の『中外医事新報』のウェブ公開が始まり、今年度から本誌のJ-STAGE公開事業に着手します。会員の利便性と本誌の認知度を高め、一層の社会貢献につとめて参ります。一方で本誌・本学会が直面している様々な問題があることも事実です。諸経費高騰と会員数漸減による苦しい学会運営が続いています。本誌のよい伝統が失われないように配慮しつつ、持続可能な体制作りを進める所存です。新体制の編集委員会への更なるご支援をお願い申し上げます。

(前編集委員長 町 泉寿郎)

このたび、町泉寿郎先生(前編集委員長)の理事長ご就任にともない、後任の編集委員長を仰せつかりました。新任の委員もお迎えし、本号から新体制のもとでの発行となります。小生が編集委員に加えていただいたのは2013年でしたので、いつの間にか10年が経ちました。この間、編集委員の仕事を分担するなかで常々感じてきたのは、本誌に寄せられる論考の多様さです。さまざまな立場からの研究関心にもとづき医史へアプローチする論考を包摂しうるフォーラムとして、本誌は貴重な立位置にあると思います。これを保持・発展させていくために、微力非才の身ではありますが、なんとかか職責の全うに努める所存です。もとより、多様で質の高い論文の掲載は、会員各位の真摯なご研究にもとづく積極的な投稿、査読システムへのご理解があってこそ可能となります。引き続きのご指導・ご協力をお願い申し上げます。

(編集委員長 永島 剛)